

先進国を目指したインドの凄ESG！ インド企業のESG開示はグローバル基準に

パワフル・インド（政策関連）～インドにおけるサステナビリティ・レポート～

▶ インド企業に課せられるサステナビリティ・ルール

高成長が続くインドの名目GDPが2026年には日本を抜いて世界第4位になると予想されていますが、大気汚染、差別、飢餓、貧困など、インドが先進国の仲間入りをするために解決すべき社会的課題は多く存在しています。こうした背景からESG（環境・社会・ガバナンス）関連の法制度も急速に整備されつつあり、インド証券取引委員会（SEBI）は、サステナビリティに関連する要素について比較可能で期限を設けた定量指標の開示ルール「**事業責任及び持続可能性に関する報告書（BRSR）**」を制定し、2023年からインドの上場企業（時価総額上位1,000社）にサステナビリティ・レポートの発行を義務付けています。当ルールでは、特に人権の尊重や環境の保全などに関する社会的課題の開示が大幅に強化されており、グローバル基準の開示が求められています。開示項目は、98の主要指標（必須）と42のリーダーシップ指標（任意）の140項目で構成されています。BRSR報告書は、原則、企業のアニュアルレポートに統合され、財務パフォーマンスとともに非財務パフォーマンスの透明性のある開示が可能となっています。

開示要件（企業行動規範の減速に基づく9つの主要カテゴリーに分類）

- | | | |
|--------------|---------------|--------------------|
| 1. 環境保全 | 2. 人権 | 3. 公正性 |
| 4. 従業員の福祉 | 5. 包括的な成長 | 6. 持続可能な製品・サービスの提供 |
| 7. 責任ある消費者対応 | 8. ステークホルダー対応 | 9. 責任ある公共政策への関与 |

▶ ESG評価の高いインド企業は株価も堅調

近年、投資家意識の高まりと共に、持続可能な社会の実現に貢献する企業に対して、より多くの注目が集まり、投資資金が向かう傾向があります。先進国においてはESGに取り組むことが企業の使命として当然のこととなっているため、パフォーマンスに大きな違いが出にくくなっている一方、**新興国では社会的課題が多く、それに取り組む企業姿勢に濃淡があることから、パフォーマンスに差が出やすい傾向**にあり、インドにおいてもESG指数が相対的に良好なパフォーマンスを示しています。

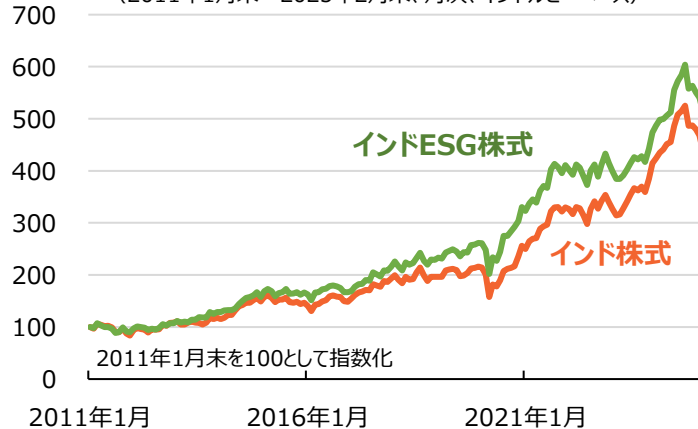
世界ESG株式は概ね世界株式と同じ動き

（2011年1月末～2025年2月末、月次、米ドルベース）



インドESG株式は堅調

（2011年1月末～2025年2月末、月次、インドルピーベース）



出所：ブルームバーグ、SEBI、各種資料を基にパインブリッジ・インベストメンツ作成

世界ESG株式：MSCIワールドESGリーダーズ指数（米ドルベース）、世界株式：MSCIワールド指数（米ドルベース）、インドESG株式：MSCIインドESGリーダーズ指数（インドルピーベース）、インド株式：MSCIインド指数（インドルピーベース）、指数は全てトータルリターン。

上記は、過去の実績、または現時点の見通しであり、将来の市場の変動を示唆・保証するものではありません。

ご留意事項

- 当資料は、情報の提供を目的として、パインブリッジ・インベストメンツが作成した参考資料です。金融商品取引法に基づく開示書類ではありませんし、特定の有価証券の売買、ファンド、商品を勧誘、推奨するものではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。当資料中の記載事項、数値、図表等は、当資料作成日時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。なお、当資料中のいかなる記載事項も、将来の投資機会または運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。



パインブリッジ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第307号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会